

<テーマ> 学力向上サポート事業を活用して校内研究を推進し、学習の基盤づくりを行った取組（石巻市立北上小学校）

「北上小学校版算数授業づくりスタンダード」の作成

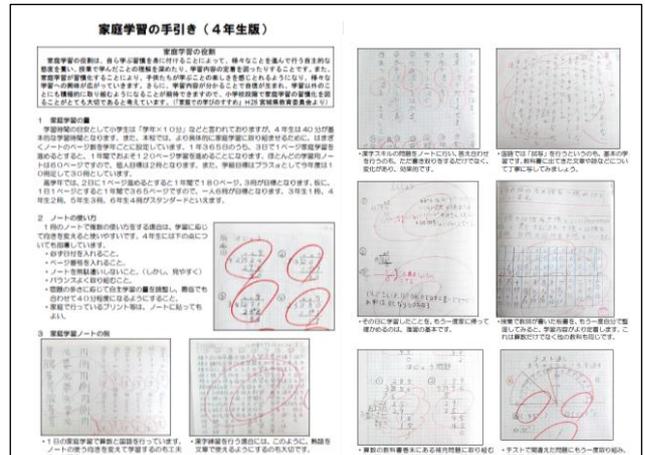
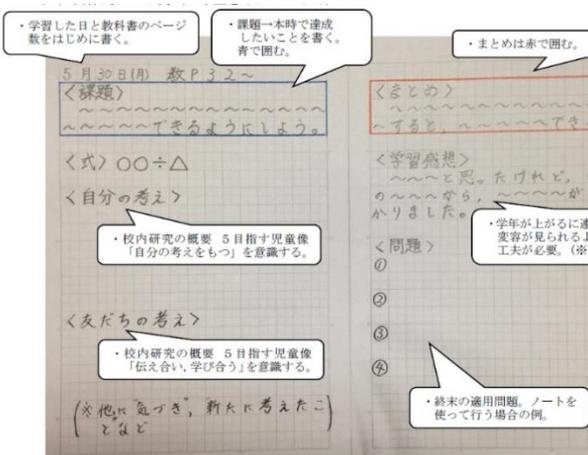
- ・ 学力向上サポート事業（算数科）との連携を図りながら、全学級担任による全校授業研究会を実施。
- ・ 「みやぎ授業づくりスタンダード」や「算数・数学ステップアップ5」を生かした授業づくりを全校で共通実践。
- ・ 授業研究会の成果と課題を積み重ね、基本的な学習過程における有効な手だてや指導の視点を明確にし、児童の実態に応じた「北上小学校版算数授業づくりスタンダード」を作成。



段階	視点	有効な手だて 指導の視点（指導・助言より...）	今後の授業づくりの視点 留意事項
導入	視点1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 長教を軸とした学習過程の工夫 児童と本音を引き出す 既習の見方を丁寧に確認すると、未習事項でもできそうだという期待と自力解決の見通しにつながる。 数直線を用いて視覚的に確認する。 大型模型を活用する。 図形の学習では、デジタル教科書等を有効に活用し、学習意欲を高める。 図を活用しながら、自分の考えを説明させ、解決方法についての見通しをもたせる。 「解いてみたい」という必要感をもてる導入は、とても大事。身近なものを用いるなど、自分ごととして捉えられるような課題を設定できること。 見通しとは、①結果の見通し、②方法の見通しがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のノートに問題場面を整理して、自力解決につながるかについて提案する。 丁寧に既習事項を確認し過ぎると、考えに広がりが出てこないことがある。
	視点1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 考えを広げるための学び合いの工夫 プロットを並べる活動を行う。 児童の実態に応じてヒントカードや作業用シート（カード）の活用を図る。 ITからの声掛けやヒントを活用する。 ICTとヒントカードの活用は自力解決への手助けになるのみならず、学習意欲の向上につながる。 児童が行う作業と思考を、教師が事前に整理し、整理を準備する。 自力解決は、ノートに記述するのが大切である。今後各学校で統一し、実践していきたい。 自力解決において自分の考えをノートに書かせて整理させることが、考えを広げる学び合いにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の段階でどのような思考ツールが有効で、発達学年において、どのような思考スキルが必要かについて提案する。 児童一人ひとりが自信をもって学び合いに臨めるようにするための自力解決の在り方や、そのための数直線の活用、ワークシートの工夫等について提案する。
展開	視点1 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じた活用問題の取組の工夫 活用問題を設定する。 活用問題「する」学び合いの時間を短縮する必要がある。「しな」学び合いが充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思考の足跡が残りに、話し合いにつながるワークシートを用意する。 式を立てて友達と考えを説明させる取り組みは、児童の頭を活性化させる。思考を促すための取り組みである。 同じ考え同士で類似点を比較させることで、児童は自分の考えに自信をもつことができ、見えない情報が増える。 児童が目的をもって学び合いを行うための手だてや学び合う姿について提案する。 発達段階における学び合いに必要なスキルと、学び合いのモデルについて提案する。 日常指導と関連させながら、児童の考えをノートに残し、それをもとにした学び合いについて提案する。 「何のために」集団解決を行うのか、常に本時のねらいに立ち返り、発達段階に応じた一定の「条件」をつけた集団解決の在り方について提案する。 グループ編成をする際には、なぜこのグループにしたのかの意図を事前に伝えること。
	視点2	<ul style="list-style-type: none"> （1）家庭学習の工夫 学年の発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を作成して配布する。 ITから基本的な内容について継続的に課題を出す。 みやぎ単元ライブラリーを、単元のいづれかの段階で活用する。 （2）教室経営の工夫 低学年においては、マス入り黒板と児童のノートづくりを連動させる。 配速や時間など一定のルールのもとによるノート指導は効果的である。全員が自信をもってノートにまとめることができる。 算数コーナーは、学年間で統一を図りながら継続実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 視点2の評価規準や検証の方法について提案する。 高学年における「家庭学習の手引き」について提案する。 低学年における家庭学習の内容について提案する。

ノート作りの手引きの作成

学年ごとの家庭学習の手引きの作成



- ・ 『学びが見えるノート』を目指して研修部で提案。
- ・ 各学年の系統性を意識して継続的に指導。

- ・ 児童の学習事例を掲載した手引きを作成。
- ・ 学年ごとに児童や保護者への啓発を図る。